

令和4年度 全国高校生体験活動顕彰制度
「探究プログラム」オリエンテーション合宿 in 諫早
Create the Future in Isahaya 2022 ～集え！郷土を創るPlanner～

〔主催〕 国立諫早青少年自然の家
〔期日〕 令和4年8月3日（水）～4日（木） 1泊2日
〔活動場所〕 国立諫早青少年自然の家
〔参加者〕 15名（男性0名、女性15名）
〔講師〕 門田 卓史 （株）エデュ アクティバーターズ代表
〔担当職員〕 小野 栄策、葛島 隆文、西田 尚由、寺中 拓也

1) 事業の趣旨

本顕彰制度は、平成30年度告示の学習指導要領で示された「資質・能力の三つの柱」を軸に、探究力を高めるためのカリキュラムを作成しています。カリキュラムを通して、自然の家で提供する体験活動や集団宿泊学習で「探究のプロセス」を学ぶとともに、実際の地域での実践活動を行い、その成果を「実践報告書」としてまとめ発表することで、高校生自身の学びを深めることができます。

特に、当所では、探究的な学習の質を高める「協働的な学び」を中心とした体験活動が「主体的・対話的で深い学び」につながり、高校生が学びに向かう力を高め、次の一步を踏み出すための機会を提供します。

2) 目標

- ① 「探求のプロセス」に沿った探究活動を実践できる。
- ② 自身が所属する地域の課題を発見し、解決しようとする意欲を高める。

3) 研修プログラム

1日目	2日目
(送迎)	6:30 起床、準備
10:00 到着、開会式	7:00 朝食（レストラン）
10:30 アイスブレイク【写真①】 ガイダンス	8:00 宿泊棟清掃、活動準備
11:00 グループで課題を解決する活動Ⅰ【写真②】	9:00 ワークショップ（野外炊事） 協働作業による実践【写真⑥】
12:00 昼食（レストラン）	12:00 講義・演習Ⅱ
13:00 講義・演習Ⅰ【写真③】【写真④】 グループで課題を解決する活動Ⅱ	個人課題を見つけるワーク 【写真⑦】
17:00 夕食（レストラン）	グループ発表Ⅱ【写真⑧】
18:00 入所オリエンテーション	15:00 ガイダンス
19:00 本日の活動の振り返り グループ発表Ⅰ【写真⑤】	15:30 退所式 出発
21:00 入浴、就寝準備	(送迎)

4) 事業展開

① アイスブレイク



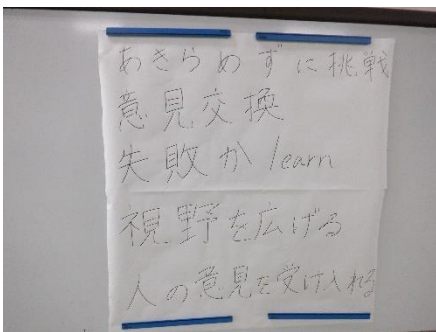
参加者同士が打ち解けあえるように簡単なゲームを行いながら関係づくりを行った。

③ グループで課題を解決する活動Ⅱ



I-CAP (諫早コミュニケーションアドベンチャープログラム) を体験し、協働の学びを深めた。

⑤ グループ発表Ⅰ



本日の行った「正解のない課題」に取り組むために何が必要か全員でまとめた。

⑦ 個人課題を見つけるワーク



自分で調べたい地域課題を設定し、参加者がインタビュアーとなり、内容を吟味した。

② グループで課題を解決する活動Ⅰ



グループを編成し、簡単な課題を解決する方法を学び、話し合い活動のスキルを高めた。

④ 活動Ⅱ (振り返り)



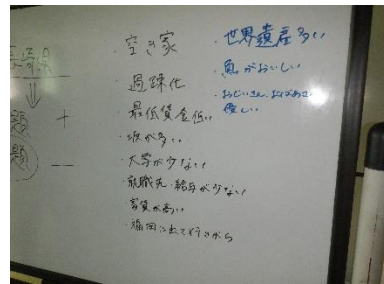
活動の合間に、話し合いや振り返り活動を入れ、学校で生かせるスキルをまとめた。

⑥ 協働作業による実践



一日目にまとめた「協働の学びを深めるために」必要なことを実践するために野外炊事を行った。

⑧ グループ発表Ⅱ



話し合った内容を発表し、ホワイトボードにまとめて、全員で共通理解した。

5) 評価

① アンケート結果（事業全体に対する満足度）

満足	やや満足	やや不満	不満
80%	20%	0%	0%

② 参加者の声

- ・今までしっかり話し合いをして課題を解決しようとするのがあまりなかったので、いい経験になりました。他の学校の人たちとも仲良くなれて、いろいろな話を聞くことができました。活動して、振り返りが多かったのも、より意見や考えが深まったと思いました。
- ・自分たちで話し合ってみんなが納得する答えを出すことの大切さを感じました。「正解のない課題にどのように取り組むか」「チームで協働するには」について1つずつ考えたので、実践しようと思います。
- ・自分たちで考えて行動する場面がたくさんあったので、自分も意見を出そう、話し合いに参加しようと思い、頑張れました。学校での話し合いの場面で、今回の合宿で学んだ、あきらめずに考えること、話している人に反応すること、分かりやすく伝える努力をすることを大切に実行したいです。

6) 成果と課題

① 成果

- ・今回の活動のテーマである「正解のない課題にどう取り組むか」「チームで協力するにはどうするのか」を意識して、諫早青少年自然の家で提供できるプログラムを整理できた。
- ・具体的探究のサイクルを体験し、協働的に学ぶことの楽しさを実感することができた。感想の中にも、この学びは日常の学校生活で生かせることに気づいていた。

② 課題

- ・もっと探究活動が深まるように、参加者のニーズを把握し、「何のために行うのか」を考え活動プログラムを計画する必要がある。
- ・日々の実践から、担当者のファシリテーター力を高めていく。
- ・個人課題の立て方、地域課題の調べ方、テーマの持たせ方等、協働の学び2サイクル目の取組方を考える必要がある。